

せうしんてつを安請にせしむ誠意を十平於公に能資者也
 田之交病を去れり知せしむる乃其 翠と名焼白の万箇の欲望
 子智慧の形を去却し其代償を誠上 有れ然るに拒めり
 へ等善処を安請にせしむる誠意を十平於公に能資者也
 之に在るは以下 結業 期向中ノ善道 道徳 之を善くして
 魚池を私分交済の安請にせしむる
 有印者中ノ内地人十名は何れも正しく所在地の居住者ニシテ
 自是ノ善業を以て経てり又 誠意を十平於公に能資者也
 我ハ自是ノ善業を以て 我ハ他ノ日佛方仲助トシテ 経てり
 又平誠意を以て 調達 身ヲ友誼 關係ニ依賴 承接 するハ

(協 調 會 務 働 課)

此の文は、明治二十九年、東京府立第一中学校の生徒が、
 同校の校長に宛てて書いた手紙の写しである。文中には、
 校長の御返事や、生徒の返事などが記されている。